（別紙様式３）

令和４年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号　　９１
学 校 名　　愛知県立　豊田東　　高等学校
校長氏名　　鶴　田　昭　博

研究責任者職・氏名	教　諭　・　小　鹿　留　美
研究テーマ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組
本年度の研究目標	（１）ＩＣＴ活用した授業に取り組む。 （２）公開授業などを通して授業研究の効果を高め、授業改善を行う。 （３）各プランの特徴を生かした「主体的・対話的で深い学び」について学校全体で取り組む。

研　究　の　実　施　内　容

実施月日	内　　容	備　考 (対象生徒等)
６月９日	第１回　校内あいちラーニング推進委員会 あいちラーニングにかかる学校訪問に向けて、日程確認および協力依頼	管理職、教務主任、研修図書部主任、情報推進部主任、系列・教科主任
５月２３日 ～６月１０日	校内授業研修期間 中堅教諭資質向上研修対象者を中心にＩＣＴを活用した研究授業を実施	全職員
６月１６日	あいちラーニングに係る高等学校訪問（地歴・公民、数学）	公開授業担当者
９月１６日	第１回　主幹校主催　連絡協議会	
１０月２１日	第２回　校内あいちラーニング推進委員会 あいちラーニング推進事業にかかる研究授業および研究協議会の授業担当者の決定・日程確認および協力依頼	管理職、教務主任、研修図書部主任、情報推進部主任、系列・教科主任
１１月１６日	あいちラーニング推進事業にかかる研究授業および研究協議会	公開授業担当者
１月２４日	第２回　主幹校主催　連絡協議会	

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

ＩＣＴを利用した研究授業および研究協議会について

１　中堅教諭資質向上研修者を中心としたＩＣＴを活用した研究授業

（１）　日　　時　令和４年１１月１６日（水）午後１時２０分から午後３時３０分まで

（２）　日　　程　公開授業　午後１時２０分から午後２時１０分

教科	科目	指導者	対象生徒
国　語	古　　典	小橋　裕貴	３年
国　語	現　代　文	牧野　智也	２年
理　科	化　　学	山田　賢一郎	３年
理　科	生　　物	都築　雄一	３年
英　語	英語コミュニケーションⅠ	鬼頭　伴明	１年

（３）　研究協議　午後２時２０分から午後３時２０分

２　各科目におけるＩＣＴの活用方法

（１）古典

・３～４人１組にタブレット１台を利用し、本文中の単語や文法事項等を調べさせる。

・パワーポイントを用いて、本時の内容の振り返りを行う。

（２）現代文

・グループ分けをし、主人公の心情についてロイロノートを活用し、意見の共有をさせた。

（３）化学

・タンパク質の構造と性質の関係を理解させるために、各班で様々なアングルから実験動画をみて理解させた。

（４）生物

・観察、実験を行い、各自の結果をロイロノートを活用し、他の生徒との結果と比較し分析させた。

（５）英語コミュニケーションⅠ

・英文チェッカー「Ginger」を用いて、言い換え表現を調べさせた。

・リテリングや自分の意見を各自動画で撮影後、ロイロノートに提出し情報共有をさせた。

３　ＩＣＴの活用における振り返り

・パワーポイント等を用いて視覚的に訴えることで、より理解を深めさせることができた。

・ＩＣＴを活用することでより活発な授業展開ができる一方、タブレットやタイピングに不慣れな生徒がおり、予定より提出に時間がかかってしまった。

・タブレットを利用して、動画を手元で見ることができ、全ての生徒に平等に理解させることができた。

・ロイロノートに意見を提出させたため、瞬時に多くに意見を反映できるとともに意見比較も容易にできた。

・動画を各自で撮影し見直すことで、客観的に自己評価をすることができた。

４　まとめ

ＩＣＴを利用した授業展開は、口頭や紙だけでの説明より理解度が深まることが明らかであった。グループワークなどにおいても、普段あまり発言しない生徒でも容易に参加しやすく、多くの生徒の情報を短時間で共有することができた。

一方で、教師側のＩＣＴを利用した授業展開がどの科目においても画一的になっており、科目の特性に応じた様々な利用ができるよう研修等を積極的に行い、教師の技術力向上に学校全

体で取り組んでいかなければならないと感じた。 　しかし、本校のインターネット環境はあまり芳しくなく、アクセスポイントを意識して各授業の実施場所を離したにも関わらず、インターネットを介して授業展開をした科目全てにおいてログインができないやデータの集約に時間がかかり、授業内で完結できなかったなどトラブルが多々あり、各生徒間での情報共有にも差がでてしまった。来年度から一人一台のタブレット活用を見込んでいるだけにとても残念な結果となってしまった。早急なインフラ整備の改善の必要性を強く感じた。 　授業内全ての時間でＩＣＴを活用する必要はないが、全ての生徒に平等にストレスなく授業展開をするためには、従来の紙による活用との併用を念頭において、科目の特性に応じたより良い方法を模索していかなければならないと強く感じた。

※　本研究報告書は、令和５年３月 13 日までに当該地区の主管校に提出する。

※　名古屋地区においては、緑丘高校、惟信高校、中村高校は昭和高校へ、南陽高校、鳴海高校、名古屋南高校、名古屋工科高校は天白高校へ提出する。